あいちトリエンナーレ「表現の不自由展・その後」は再開されなければならない！

山本みはぎ

愛知県で3年に1度開催される国内最大級の現代アートの祭典である、あいちトリエンナーレ 2019 の特別展として企画されていた「表現の不自由展・その後」の展示が、開始後わずか3日でテロ予告や抗議によって中止に追い込まれた。実行委員会の会長は、大村秀章愛知県知事、芸術監督は津田大介氏である。

「表現の不自由展・その後」は、国内外で様々な理由で撤去された 16 組の作家の作品が展示されている。津田監督によると「議論が分かれる『表現の自由』という現代的な問題について議論するきっかけを作る」ことが企画の趣旨だという。作品の中には、韓国の彫刻作家キム・ソギョン、キム・ウンソン夫妻による旧日本軍慰安婦を表した「平和の少女像」や、昭和天皇の肖像写真を曼荼羅や頭蓋骨などとコラージュした版画が展示されている。

3 日に発表された展示の中止は、不自由展の実行委員会には何の相談もなく、大村知事と津田監督の記者会見という形で決定されたという。中止の理由を大村知事や津田監督は、「相次ぐ抗議や脅迫の電話などで円滑な運営ができないため」としているが、開始の日、松井大阪市長が展示の内容を批判する tweet を行い、それに対応して河村名古屋市長が 2 日、展示を視察。平和の少女像に対し、「日本国民の心を踏みにじる行為」と歴史的事実である日本軍慰安婦の事実を歪曲・否定する発言をした。また、菅官房長官が、芸術祭への助成の見直しを示唆する発言をしたことが、脅迫や抗議をエスカレートさせたことは想像に難くない。

河村名古屋市長は、慰安婦を表現した少女像について「政治的中立性と社会の信頼を著しく損なう、昭和天皇の肖像群が燃える映像作品などについて、補助金などの『『便益供与』の対象とするにふさわしい『芸術作品』とは到底思えない」と主張し、大村知事に中止の要請も行い、今も、名古屋市の HP には河村市長のサイン入りの見解が載っている。

神奈川県の黒岩祐治知事もまた、「表現の自由から逸脱している。神奈川県内で同じことがあれば絶対に開催を認めない」と発言している。政治家による、不当な介入や言動などまさに「検閲」と言わざるを得ず、決して容認できるものではない。

中止を発表した、大村秀章知事は、8 月 9 日、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」の在り方を検証する委員会を設置し、企画段階から中止に至った一連の経過を整理して公表するほか、公金を使った芸術作品の展示や支援、危機管理体制についても検討すると発表した。その中で、作家や市民を交えた公開フォーラムや国際フォーラムを開催し、11 月末までに報告書を作成し、表現の自由をアピールをする「あいち宣言」を出すという。「表現の不自由展・その後」の展示を再開する権限は、大村愛知県知事にある。検証委員会が検証するという内容をいまなぜやらないといけないのか。最終報告を出すのが 11 月末というし、再開をしないままの愛知アピールが意味を持つものなのか甚だ疑問がある。そして、検証委員会の上山信一副座長は「一方で不自由展は、少女像を置いただけで、政治プロパガンダと見られ、さらに他作品とあわせサヨク的企画と見られるリスクは明らかだった。」と tweet している。このような人物に公正な検証などできるはずもない。

一方、大村知事は河村市長の発言に対し、8 月 6 日「一連の発言は憲法違反の疑いがきわめて濃厚だ」「税金だからこそ憲法 21 条(表現の自由、検閲の禁止)は守られなければならない」と発言し、愛知県の HP で、『憲法の「思想・良心の自由」「法の下の平等」を挙げ、「公権力は、補助金の交付といった場合でも、こうした基本的人権に反することが許されない」「公的な場であるからこそ、多様な表現が保障されるべきことが、憲法の要請だ」』という見解を公表している。大村知事のこの見解は正しい。であるならば、中止の理由の、脅迫や抗議・テロを示唆する

言動に対しての対処を第1に考え、再開に向けて尽力すべきである。

「表現の不自由展・その後」実行委員会は、企画の中止を受けて抗議を行うと共に、大村知事に対して、話し合いの場を求めてきた。9月2日の外国特派員協会での記者会見では、今回の中止の理由を、大村知事や津田監督が言う、管理上の問題ではなく、「表現の自由を侵害した行政の判断は検閲に当たる」とし、「市民の自由を守ること、安全に配慮しながら展示を続けることは可能だと思っています」「日本の検閲状況をひっくり返して、日本に表現の自由が生き続けていることを見せるのが最大の願いです」と表明した。そして、9月13日大村知事との対話を求めた仮処分の申し立てを行った。

実行委員会は、15日には名古屋で、17日は東京で「〈壁を橋に〉プロジェクト」命名した再開に向けての集会を持ち具体的な提案を行うとしている。
詳細は、以下で。
「表現の不自由展・その後」実行委員会HP
http://fujiyu.net/fujiyu/

企画の中止を受けて、全国の様々な団体から、抗議や再開を求める声明や要請が行われた。また、出展アーティストの中からも、展示を辞退する者も出ている。辞退は外国人アーティストだが、国内のアーティストも意見表明を始めている。10日には、展示の再開を目指す活動「REFreedom_Aichi」を始めると発表し、再開に向け、実行委員会との協議、県民との対話、表現の自由を守る討論会の開催などを企画するという。

私は、3日に展示を見に行った。大勢の人たちが整然と展示を鑑賞し何の混乱もなかった。夕方の中止の報を受け、翌8月4日会場の入り口で中止への抗議と再開を求めるデモンストレーションを呼びかけた。急な呼びかけにも関わらず、県内はもとより大阪などからも駆けつけてくださった。終了後、有志で集まり、その場で『「表現の不自由展・その後」の再開を求める愛知県民の会』を結成し、行動を開始することにした。まず、大村秀章実行委員長に再開要求の要望書、河村名古屋市長に抗議文を提出し、会場近くで再開を求めるスタンディングを開始。スタンディングは今も続いている。また、金学順さんが、慰安婦として名乗り出た日を祈念してメモリアルデーとされている、8月14日は約100人が参加し、アピール行動を行った。8月24日には、「見たかったのに！！暴力で「表現の自由」を封殺するな」の集会・デモも行い、少女像の作家のキム・ソギョン、キム・ウンソン夫妻や、いち早く再開を求めてネット署名活動を始めたIさん、同じく署名を開始した多摩美術大の学生などの発言を受けた。また、「表現の不自由展・その後」の再開を求める共同要請書の賛同を集め、9月7日の第1次の締め切りで国内外から174団体の賛同を得て、大村秀章実行委員長、津田大介芸術監督に提出した。
9月22日には、2回目の集会・デモを行う。（同封のチラシ参照）

今回の「表現の不自由展・その後」の中止は、何より憲法21条で保障されている「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。 2 検閲は、これをしてはならない。」に違反する。
この事態の根底には、日本が引き起こした侵略や植民地支配に対する歴史修正主義の問題や、天皇制に対する問題がある。旧日本軍慰安婦問題が、軍の関与のもとで行われたことは歴史の事実である。日本軍慰安婦像を反日の象徴として否定する動きは、徴用工問題に端を発し、頑なに韓国を批判する安倍政権の姿勢と共通するものがある。歴史修正主義者が主張する「歴史戦」に私たちは立ち向かい、企画展の再開を通してそのことに勝たねばならない。トリエンナーレの会期は、10月14日までだ。残された時間はあまりないが最大限の
力を注ぎ、再開を勝ち取らなければならない、と思う。
行動予定などは、以下の「表現の不自由展・その後」の再開を求める愛知県民の会」を参照ください。
Twitter・https://twitter.com/SaikaiAichi
blog・http://resumetheexhibition.seesaa.net/